

No.442

会報 2013 9月号

エッサムファミリー会



《中秋の名月》

今月の税務トピックス

法学博士
税理士 右山昌一郎

I 「消費税転嫁対策法」の内容

1 消費税転嫁に係る表示

消費税増税に対処して「消費税の円滑かつ適正な転嫁の確保のための消費税の転嫁を阻害する行為の是正に関する特別措置法」（以下「消費税転嫁対策法」といいます。）（注1）は、平成25年3月22日に閣議決定後国会に提出されました。

その後、同年5月8日「消費税の転嫁を阻害する表示に関する考え方」とした政府統一見解の提示（注2）があり、これを踏まえて衆議院において「消費税転嫁対策法原案」の修正決議（注3）後、同年5月17日に参議院に送付されました。

参議院においては、同法案を審議の結果同年6月5日成立（法律番号・平成25年法律第41号）同年6月12日に公布されています。

（注1）消費税転嫁対策法第1条（目的）消費税率の引上げに際し、消費税の転嫁を阻害する行為の是正、価格の表示並びに消費税の転嫁及び表示の方法の決定に係る共同行為に関する特別の措置を講ずることにより、消費税の円滑かつ適正な転嫁を確保することを目的とする。

（注2）政府の統一見解：消費者庁、総務省、財務省、経済産業省、公正取引委員会の連名で「消費税の転嫁を阻害する表示に関する考え方」と題した文書をまとめ、政府の統一見解として国会に提出した。

その見解では、消費税という表記を含まないセーラーは、宣伝や広告の表示全体から消費税を意味することが客観的に明らかな場合でなければ、禁止される表示には該当しないとした。

具体的な表示方法は、次のとおりである。

表示方法	可否
表示をせずに価格を据え置き	○
3%値引きセール	○
春の生活応援セール	○
消費税率上昇分値引セール	×
消費税相当分のポイント付与	×

（注3）衆議院の修正決議：修正前の消費税転嫁対策法8条二号の禁止規定「取引の相手方が負担すべき消費税に相当する額の全部又は一部を対価から減ずる旨の表示」の次に「であって消費税との関連を明示しているもの」との文言を追加して修正を行った。

これにより条文上も「消費税との関連」を明示しなければ同法案には抵触しないことが明瞭になりました。

すなわち、この修正により前記の表示方法に合致することになったといえます。

2 消費税転嫁拒否の是正に係る措置

特定事業者（大規模事業者）は、平成26年4月1日以後に特定供給事業者（中小事業者）から受ける商品又は役務の供給に関して、消費税転嫁の拒否等の行為（例 減額・買いたたき、不当な利益提供の強制、報復行為等）をしてはならないと規定されています（消費税転嫁対策法3）。

そして、この違反行為についての是正は、公正取引委員会、主務大臣（経済取引に関係する担当大臣）及び中小企業庁長官が、違反行為の情報の下に特定事業者の当該事業所に立ち入り検査を行い、又供給者である特定供給事業者にも違反事実を確認のうえ、その違反事実を公表し是正することとされています。

そして、公表は違反事実が是正されるまで継続するものと予想されます。

さらに、立ち入り検査を拒否した場合には50万円以下の罰金が特定事業者に課されることになっています。これらのことが、消費税転嫁法3条から22条に規定されています。

II 9月の税務

9月は、税務官庁も転勤・夏休みも終り税務調査が多くなる月です。事前通知がない場合でも実地調査前に事前告知が必要（実施通達規定）であるのに告知もしない調査が存在します。注意して対処して下さい。

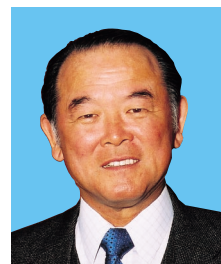
中国がなぜ近隣諸国と領土を争うのか

会 長

エッサムファミリー会連合会

や くわ あきら
八 鋤 昭

(株)エッサム会長)



日本が実効支配し日本固有の領土だと主張している尖閣諸島の領海を中国船が何十艘も頻繁に侵犯しています。昨年民主党野田政権が国有化して以来、中国の反日運動が激しくなり、中国々内に於いては日本製品の排斥、日本企業の工場や店舗の破壊が続いております。それを中国政府が止めるどころか煽ってさえおります。「愛国無罪」などと奨励さえしているように思えます。

尖閣諸島の領海侵犯がこれから永く続くだろうと私は昨年この欄に書きました。

その予測は完全に当たっているようです。

東シナ海での日本との問題だけではなく、中国は南シナ海でも同様な行動を起しております。

誰が見ても中国の主張には無理があると思えるような、カリマンタン島 (旧ボルネオ島) の近くの南沙諸島まで中国領だと言っているのです。

その結果、フィリッピン、ベトナム、マレーシアとの間で紛争になっています。別な点で言いますと独立していたチベットに1965年攻め入り自国領にしました。新疆ウイグルも自治区として併合しました。それ以外にも遠いカシミール地方の一部も自国のものだと主張し、インド、パキスタンと争っています。中国のこのような行動がどんなところから出てくるのかを今回検証してみたいと思います。

その第一、中国には国境と言う考えがありません。領土や領海と言う考え方なのです。

領土とは何かと言いますと「占領した土地」と言う意味です。領海も「占領した海」と言うことです。力の強い者が力で奪い取り勢力範囲にしたのが領土であり領海なのです。自国の勢力の及ばない先に別の国があるんだと

言うことです。その境い目が国境と言えは国境です。

それでは何故こんな考え方をするのでしょうか。

その根本は中華思想にあります。

世界の中心が中国だと言う考えが中華思想です。

それでは中国の古い歴史の成り立ちを見てみたいと思います。

中国に最初に出来た国が「夏」だと言われています。今から3,600年前に殷に亡ぼされたと言われているが、その痕跡は未だに発見されていません。この「夏」が途中で「華」の字に変わりました。BC1600年頃から始まった殷がBC1023年に周に亡ぼされます。BC1023年からBC771年まで周が続く春秋時代に入ります。これは小国が乱立して攻防を繰り返すBC770年からBC403年まで続きます。どうしてこの時代を春秋時代と言うかと言いますと論語を書いた孔子がこの期間の歴史を「春秋」として編纂したことに由来します。

同じようにBC403年からBC221年の間も小国が争う時代が続く、この間のことを戦国時代と呼びます。なぜ戦国時代と言うのかと言いますと編者が分かりませんが「戦国策」と言う歴史記述書からきたものです。

そしてBC221年に秦が中国全土をはじめて統一します。そして初代皇帝と呼称しました。

「皇帝」とはどういう意味かと言いますと、皇はキラキラ輝くと言う意味です。そして帝とは北極星のことです。当時、世界を動かす中心は北極星だと考えられていました。北極星が世界を支配していると考えられていたのです。

だから皇帝とはキラキラ輝く世界の支配者

であって、初代だから「始」がついて「始皇帝」と名乗ったのです。実際の名前は「政」でした。

始皇帝はBC259年に生まれ文王の死去により13才で即位し、その秀れた政略と部下に恵まれ周辺国の楚、魏、衛、韓、趙、宋など有力国を攻め平定し中国統一を成し遂げました。

「中原に鹿を追う」という言葉があります。当時の中国の中心は黄河の中流域でした。鹿を追うとは権力争奪に参加すると言う意味です。

こうして統一した秦の北の蛮族を「北狄ホクテキ」と言い西の蛮族を「西戎セイジュウ」、南のそれを「南蛮ナンバン」、東のそれを「東夷トウイ」と言って蔑んでいたのです。日本はこの中の東夷に当ります。日本の権力が京都にあった頃、関東地方の人を「東夷アズマエビス」と言ったのと同じことです。これらの蛮族は秦に貢ぎ物を持って勢力下になった証が「朝貢」だったのです。

北狄はモンゴル、西戎はウイグル、南蛮はベトナム、東夷は朝鮮や日本に当ります。

事のついでの余談ですが「牛耳る」と言う言葉は秦が中国を統一する迄の争乱の中で各国が組んだり争ったりする合従連衡の時、牛の耳の血を啜り合って仲間の絆を確めたことに由来します。

現在の中国をチャイナと言うのは秦のCHINAから来ています。日本は支那と言ったのです。

秦はBC221年から僅か15年で漢に亡ぼされますが始皇帝は法治主義、郡県制度を整備、万里の長城を築き匈奴を討ったりとその後の中国王朝の基礎を確立しました。

中国は漢民族以外のモンゴル族の元、満州族の清王朝が出来ましたが、結果は全て漢民族に同化させてしまいます。要するに中国は朝貢を受けたことはあっても他の国に朝貢したことがありません。エジプト王国、ペルシャ帝国、ローマ帝国が勢力を拡大していても中国が朝貢したことが無いのです。むしろ唐の盛んな頃は世界中から長安に人が集まって来ていました。中華思想、それは中国が世界の中心であると言う考えが2,200年も前から続

いていたのです。だから清朝末期にイギリス、フランス、ドイツ、日本にいいように蹂躪されたことがプライドを大きく傷つけられたのです。それと中華思想、世界の中心の意識がないまぜになって現在の領土、領海拡張で譲ることのない行動に繋がっているように思います。

その上に共産主義を建前にしているから融通がきかないのです。マルクスが書いた資本論は1867年です。植民地主義、初期資本主義に対抗して出て来た共産主義です。中国の現在の行動パターンの一部は共産主義者の独裁と資本主義が自国に都合のよいところだけ取り入れているようにも見えます。第一次と第二次の世界大戦の経験に学んで西欧や日本は国際協調をベースに動いていますが中国は自国の利益を優先し協調を後に廻しているように思います。悪く言えば、思い上った大国意識は100年前のものです。

このような力による外交能力を信じている隣国を持つ日本は「沈黙は金なり」などと自己主張を控えているととんでもないことになりそうです。

2,500年前の孫子が唱えた「三戦」を実行している中国にしてやられそうな予感がしています。

三戦とは「世論戦」、「法律戦」、「心理戦」のことです。世論戦では中国は世界中に宣伝を仕掛けて「尖閣は中国領だ」と言い続けています。

日本は「尖閣は日本固有の領土だ、領土問題は存在しない」では迫力に欠けます。

法律戦では大陸棚の延長上に尖閣があると言っているのです。

心理戦では尖閣の領海内に中国船が連日押しかけて日本の心理を攪乱しています。

2,500年前の孫子の兵法を着実に、効果が上る迄続ける息の永い戦略を実行中なのです。

日本も「相手を刺激しない」などと言っているだけでは三戦にやられてしまいます。

戦略を練って忍耐強く主張を続けることです。

それ以外に解答は無いと考えています。

ファミリー会2013年9月～2013年10月行事予定《研修会》

詳しくは、各地区会事務局にお問い合わせください。

月	日	曜日	地区会	演 題 ・ 講 師 ・ 時 間 ・ 会 場
九 月	2	月	北海道会	演題：「消費税率の引上げと経過措置その他の改正」 講師：税理士 金井恵美子 先生 時間：13時30分～16時30分 会場：京王プラザホテル札幌3階「扇の間」
	10	火	関東会	演題：「これからの相続税対策と事業承継」 講師：税理士 岩下忠吾 先生 時間：14時～17時 会場：(株)エッサム本社ビル3階「グリーンホール」
	4	水	関東会	演題：「資産税の誤解と疑問 2013年版」～相続法と相続税法（民法と税法の異同及び関連事項並びに課税関係）～ 講師：税理士 高橋安志 先生 時間：14時～17時 会場：(株)エッサム本社ビル3階「グリーンホール」
	5	木		
	6	金	神奈川会	演題：「改革消費税法」 講師：税理士 熊王征秀 先生 時間：13時30分～16時40分 会場：ローズホテル横浜2階「ザ・グランドローズ・ボールルーム」
	10	火	中部会	演題：「相続直後の手続きと準確定申告」 講師：税理士 竹内春美 先生 時間：13時30分～16時30分 会場：レセプションハウス 名古屋通信会館4階 ユニオンホール
	17	火	関越会	演題：「ザ・税務調査」～最近の動向と国税通則法改正後の調査について～ 講師：税理士 牧野義博 先生 時間：13時30分～16時30分 会場：大宮サンパレス(プライダルステージグランツ)3階ストーリーア
	18	水	東北会	演題：「近時の消費税及び相続税改正と今後の対応」 講師：税理士 岩下忠吾 先生 時間：13時30分～16時30分 会場：仙台ガーデンパレス2階「鳳凰」
	24	火	関西会	演題：「新設された税務調査手続きのすべてと税理士の権利」 講師：税理士 右山昌一郎 先生 時間：13時～16時 会場：サンポートホール高松5階 54会議室
十 月	7	月	関東会	演題：「これからの相続税対策と事業承継」 講師：税理士 岩下忠吾 先生 時間：14時～17時 会場：(株)エッサム本社ビル3階「グリーンホール」
	22	火		
	8	月		演題：「税理士のための賃貸不動産をめぐる税務と承継」 講師：税理士 竹内春美 先生 時間：14時～17時 会場：(株)エッサム本社ビル3階「グリーンホール」
	15	火		
	9	水	東北会	演題：「税制抜本改革法と消費税軽減対策特別措置法」～消費税率の引上げその他の改正について～ 講師：税理士 金井恵美子 先生 時間：13時30分～16時30分 会場：郡山ビューホテルアネックス3階「麓山」
	17	木	九州会	演題：「最近の注目判例（民事・税務）」 講師：弁護士 内田久美子 先生 時間：13時30分～16時30分 会場：九州北部税理士会館2階「大会議室」
	21	月	中部会	演題：「税制抜本改革法による消費税改正について」 講師：税理士 金井恵美子 先生 時間：13時30分～16時30分 会場：レセプションハウス 名古屋通信会館4階 ユニオンホール
	28	月	中国会	演題：「(通達や実務問答集に載っていない)裁決事例から確認する土地評価の実務」 講師：税理士 笹岡宏保 先生 時間：13時30分～16時30分 会場：広島商工会議所1階「101号室」



“企業研究シリーズ” 第22回

企画から仕上げまで！

一貫したもののづくりの現場に迫ります！

「スコッチグレイン」のヒロカワ製靴 自社工場見学会

2013年7月25日 関東エッサムファミリー会主催

■オリジナルブランド「スコッチグレイン」

事務所運営や顧問先の経営指導に役立てていただくため、毎月開催している企業研究シリーズ。今回は第22回目の開催となりました。見学先は、オリジナルブランド「スコッチグレイン」で知られるヒロカワ製靴です。

同社は1964年に創業し、1978年にスコッチグレインを立ち上げました。見学会当日は、スコッチグレインの靴を履いてご参加いただいた先生もいらっしゃったようです。

東京都墨田区に本社と工場を置き、企画から仕上げまでほぼ全工程を自社で行うヒロカワ製靴。靴底に革を重ね、ひとつひとつ丁寧に縫って仕上げる伝統的な“グッドイヤーウェルト製法”のみでつくられる靴づくりの現場を、2代目社長である廣川 雅一氏自ら案内してくださり、その後詳しいお話をお伺いしました。

■墨田区が世界に誇る靴づくりの現場



敷地内に点在する工場では、工程ごとに分かれたフロアで100名以上の職人が汗を流しています。

スコッチグレインの魅力のひとつである最高級の革がずらりと並ぶフロアで、まずは革を仕分けることから靴づくりが始まります。タンナリー（革をなめす工場）から届く革を廣川社長自ら等級ごとに選別し、傷や血管、しわの具合でその用途を決めます。その後、中底の裁断・リブ巻き・検品・甲革の裁断・木型・すくい縫い・だし縫いと工程が続く、1足の靴が出来上がるまでには実に多くの工程を経ていることがわかります。ほぼ全工程を自社で行う同社では、靴づくりに欠かせない木型も自社製。通常のシューズメーカーで

はグレーなどが一般的なようですが、こちらでは赤や青、緑などカラフルな色ばかりです。実はこれも生産性を上げるためのこだわりなのとか。職人の確かな腕と細部にまでわたるこだわりが、高品質を支えているのだと感じました。



＜靴をさらに魅力的に。モルト・ドレッシング＞

スコッチグレインの靴は、弾力性があって底の張り替えが可能なグッドイヤーウェルト製法のみで作られており、手入れをしながら何十年も履き続けることができます。

そこで、お客様自身にも楽しみながら手入れをしてもらおうと廣川社長が考案したのが「モルト・ドレッシング」です。ウイスキーを用いて革に艶を出す技法のことで、休日のリビングで好きな音楽でも聞きながら、靴にもウイスキーを…というイメージで提案しているそうです。薄暗い玄関にうずくまり黙々と作業をする、という従来の靴磨きに対するイメージを変え、さらなる靴の魅力を引き出すことに成功しています。実際にこうして磨かれた靴を見せていただき、深みの増した艶にその効果を実感することができました。

（※）「会計事務所の広場」に詳細記事を掲載

セミナーの全内容や、見学内容の詳細については「会計事務所の広場」にさらに詳しく掲載しております。ぜひ、ご覧ください！

記事の全文はこちらでお読みいただけます。

【サイト名】  会計事務所の広場

エッサムファミリー会

【URL】 <http://kaikei-hiroba.com/>

会計事務所の広場

検索

【イベント】 > 企業研究開催記事

ドイツ・チェコ周遊

経営税制研修視察旅行に同行して

Aコース 13日間の旅

熊本営業所 田 中 新 吾

去る6月7日～19日、エッサムファミリー会、海外研修視察旅行が行われました。

今回のテーマは『中世の街並みとロマンチック街道、古城を巡る旅』です。

まず始めに5月下旬から欧州を襲っている集中豪雨によりエルベ川の堤防が決壊し、周辺住人数万人に非難指示が出され、ドイツ・チェコで多数の死者を出す大惨事があり、不安を抱えたまま出発の準備を行いました。

『1日目』6月7日（金）

成田空港第一ターミナルにてA・Bコースの合同結団式が行われ、参加者によるスピーチでは、自己紹介や旅行に対する様々な思いを話され、皆様がどれだけ楽しみにしていたのかを感じ取る事が出来ました。



成田空港から、約12時間のフライトで予定より早くミュンヘン空港へ到着しました。専用バスにて、初日の宿泊地ミュンヘンへ向かう道中で、BMWの巨大な本社や2006年ワールドカップに利用された、アリアンツ・アリーナサッカー場を眺めながら進みましたがバスは渋滞、ドイツは金曜日の仕事は午前中、または午後の早い時間に仕事を終える為、早い時間から渋滞が始まるそうです。ホテルに到着しレストランで食事、皆様お待ちかねのドイツビール！ピルスナー系のビールは、さ

っぱりして日本のビールと同じ感覚で飲む事ができ美味しいです。ドイツは満16歳以上でアルコールが飲めて、ビアホールも大人同伴で入店すればビールを飲む事が出来るそうです。

『2日目』6月8日（土）

窓を開けると今日からの観光を期待させるような快晴で、湿度が低く過ごしやすく感じました。本日はミュンヘン市内の観光で、マリエン広場からスタートします。街の中心で周辺は歩行者天国になっており、デパートやレストランが軒を連ねるミュンヘンのメインストリートです。そこに面しているのがドイツ最大の仕掛け時計グロッケンシュピールで有名な新庁舎です。



歩いていると丁度11時になり、32体の人形が音楽と共に動き出しました。結婚式の様子を再現しているそうで、大勢の観光客はその様子に釘付けでした。その後、ニンフェンブルク城へ。宮殿の入口までに噴水や水路があり、白鳥や水鳥がたくさんいて街中とは思えない雰囲気です。場内では、結婚式の写真撮影の中に、思わず一緒に入り写真を取られるお客様もいらっしゃいました。中に入ってまず目を奪われるのがシュタイネルネ・ザールという大広間、壁一面に描かれた画が見事で

す。1845年にはメルヘン王と呼ばれる、ルートヴィヒ2世がニンフェンブルク城の離宮で誕生したそうです。バスで明日の観光地でもあります、チェスキークルムロフに移動。今晚宿泊のホテルルージェは、元々は修道院の建物をホテルに改装したらしく、雰囲気のある5つ星のホテルで就寝です。

『3日目』6月9日(日)

本日は世界遺産の古都チェスキークルムロフの観光、朝霧に浮かぶチェスキークルムロフ城は幻想的な風景で、川のせせらぎと小鳥のさえずりに皆様感動、これ以上のBGMは必要ありません。



ボヘミア地方ではプラハ城に次ぐ規模をもつ大きな城、川岸から見上げる城壁は実に迫力があり、美しくもあります。城の入口のお堀には熊がお出迎えしてくれ、13世紀に創建されたこの城は、次々に新しい建物が付けられており、それぞれの時代の建築様式が調和した大きな建物となっています。お城の入り口の前に向かうと城の管理の方が鍵を取り出し中へと案内されます。場内は残念ながら撮影禁止、どの部屋も基本的に鍵が閉まっており、開けたら必ず閉め厳重に管理されている様子が伺えました。礼拝堂の中に入ると大きなパイプオルガンがあり、これは18世紀の物らしく、通常の教会では後ろ側にあるパイプオルガンが横に付いています。さらに部屋を進み、壁を見ると白い服装の女性の絵があります、この人物は白い貴婦人と呼ばれる幽霊で、今でも夜の12時になると現れるとか。チ

ェコ人だったら殆どの方が知っている、チェコで一番有名な幽霊だそうです。その後、皆様お待ちかねのショッピングタイム。チェコの通貨はCZK(コ罗纳)です。店の前には1€=25CZKの看板が貼ってあり、大体のお店ではユーロが使えるようで皆一安心で買い物を楽しまれていました。

『4日目』6月10日(月)

本日は小雨の中のチェコの首都プラハ市内の観光です。チェコの面積は7万8千kmで北海道より少し小さいぐらいで、人口は1,000万人程度、1993年にチェコスロバキアがチェコとスロバキアに分離して出来た国です。街中をバスで進むと、雪?が降っているのかと思いきやポプラの木の種が割れて綿毛がふわふわと宙を飛んでいるのだそうです。綿が飛んでいる光景なんて初めて見ましたがなかなか綺麗でした。プラハ城内は、とにかく広いです。聖ヴィート大聖堂や聖イジー教会、そして黄金小路と見どころが多く全て巡るには丸一日くらい掛るとの事です。次に向かったのはカレル橋。



ヴルタヴァ川に架かるプラハ最古の美しい石橋で橋の上はものすごい人で、歩くのがとても大変でした。橋の両端には30体の聖像彫刻が並び、ヴァイオリンを弾く人など路上パフォーマンスをする人がいます。この橋は約600年近くもの間健在だそうで、何度かの大洪水にも耐えてきたその技術には驚かされます。午前中3時間強の散策で皆様大変お疲れのご様子、バス中では熟睡、次の目的地ドレスデ

ンへ向かいました。

『5日目』6月11日（火）

朝起きると昨日だいぶ歩いたせいか足が少々筋肉痛になっています。まずはドレスデン市内の観光、ヨーロッパ屈指の美しいオペラハウス、ゼンパーオペラの前で集合写真を撮り、次に向かうのはドレスデン観光の目玉であるツヴィンガー宮殿、アウグスト強王によって1732年に完成したドイツ屈指のバロック建築です。第二次世界大戦中に崩壊しましたが、2006年に復元し現在の形になり、中は個性豊かな博物館になっていました。（マイセン磁器が出来た際には、有田の古伊万里や柿右衛門に似せたデザインが受け継がれている事からか、日本でも佐賀県の有田ポーセリングパークにツヴィンガー宮殿再現した建物を見る事が出来ます。）お昼ご飯は、ギネスブックにも認定されている世界一美しい牛乳屋です。店内はタイル職人によって作られた宮殿のようなお店です。1階が牛乳やチーズを販売している売店、2階のカフェで食事が出来ます。キノコのオムレツやデザートのアイスは、さすが牛乳屋の料理で皆様満足されていました。次にヨーロッパ磁器で有名なマイセン磁器工房へ向かいました。



工房の実演ルームでは、日本人観光客用にテープガイドがあり、分かりやすく見学する事ができ、その美しさと完成された職人の技にため息が出ました。工房の見学後には、直営店にてお買い物。皆様見学直後で気分も高揚しており、美しい陶磁器を目の前に、クレジットカードが打ち出の小槌状態に(笑)。お

買い物を楽しまれた後は、次の目的地ベルリンへ移動です。

『6日目』6月12日（火）

本日はドイツの首都ベルリン観光です。人口350万人で、ヨーロッパでも有数の観光の町であり、博物館の数が170箇所もあります。最初に向かったのが、統一ドイツの象徴ブランデンブルク門。美しいブランデンブルク門の上部にある、勝利の女神と4頭立ての馬車は、戦争に勝ったナポレオンにパリに持ち去られてしまったが、1814年にベルリンに戻ったそうです。ベルリンと言えば、やはりベルリンの壁です。チェックポイントチャーリーそばのこの博物館では壁の歴史や西への脱出を試みた東の人々の軌跡が展示されています。20年以上前には存在していたベルリン市民を引き裂いた壁のドラマ、壁を越えて脱出した人たちのあの手この手の写真や話がパネルで紹介されています。見つかったら殺される危険も犯して成功した人たちだと思えると感慨深く、ガイドさんの説明を皆様熱心に聞き入っていました。今日のお昼ご飯は日本料理です、皆さんそろそろドイツ料理に飽きた頃？前菜のお寿司に始まり、メインの海鮮鉄板焼きと久々の日本料理に、今までで一番完食率が高かったです。その後、ポツダム会談の会場である、ツェツィーリエンホーフ宮殿に向かいました。日本史上忘れる事が出来ない場所であり、日本に対する降伏勧告および戦後処理方針の宣言などの展示物、資料や写真などから見て、この場所で日本の運命を決めたのかと思うと、歴史の重さを痛感します。



『7日目』 6月13日（木）

ベルリンから本日の観光地ライプチヒに約3時間のバス移動からスタートです。到着後、聖トーマス教会に向かいました。ここはバッハが27年間オルガン奏者と合唱団の指揮者を務めたそうで、教会の奥にはバッハのお墓がありました。その後、バッハ博物館に向かいました。



こちらの館内は、iPodの音声案内端末を借りて見学でき時代の進化を感じます。しかし不慣れで操作に戸惑う先生方もいらっしゃいました。館内はバッハの直筆の譜面や手紙などの展示もあり、音楽も聴くことができました。余談ですがこちらにあったトイレは水を流すとトイレの便座が自動的に一回転して、便座を清潔に洗浄する仕組みになっています。この便座洗浄機能がついたトイレは現在、国内で300ヶ所以上あるということです。晩御飯は、若かりし頃のゲーテや森鷗外も通ったという、アウアーバッハス・ケラーで食事です。森鷗外の壁画や、レストラン前のファウストの銅像など、見所が沢山ある楽しいレストランでした。

『8日目』 6月14日（金）

昨晚雨が降ったようで風があり若干肌寒く感じます。ドイツの文豪ゲーテ街道を車で走りながら目的地であるフランクフルトへ。本日はバス移動が中心ですが、道中はガイドさんの説明で退屈しませんでした。ドイツの面積は日本とほぼ同じで、国の面積順は日本60位、ドイツ61位です。しかし森林率は日本が

3分の2で、ドイツが3分の1で、ドイツは山が少なく平地が多く人口密度も低い事になります。ドイツ人は日焼けが好き？冬が長く、日射量が少ないこの国では太陽への憧れが半端でなく、夏場は肌を露出している人が沢山います。日傘をさしている人は見かけないどころか、サンオイルを塗っている人をあちこちで見かけました。話を聞いているうちに長い移動を終え、ようやくバスは目的地であるフランクフルトに到着しました。夜はお待ちかねのオーケストラ演奏会です。アルテオペー（旧オペラ座）にて、皆様ドレスアップして開演を待ちます。なんと座席が最前列となっており、目の前の大きなピアノと演奏者の足しか見えずとも、大迫力は伝わって来ました。演奏者の中には日本人女性の姿もあり、終了後にはスタンディングオベーションとバラの花がステージに投げ入れられ、現代音楽を十分に堪能する事が出来ました。



『9日目』 6月15日（土）

ドイツの玄関口フランクフルト、ライン川の支流、マイン川の流れるフランクフルトは、ドイツの商業、金融の中心地。今日はこの近代的なオフィスと中世の街並みが融合された街観光からスタートです。市民はゲーテのことを「フランクフルト市民の偉大な息子」と呼んで、ゲーテがここに生まれたことを、大変誇りにしているそうです。

そのゲーテハウスは、ゲーテが幼少から青年時代まで過ごした家です。外観は普通の町並みに溶け込んでいますが、建物内部は広く、

豪華な調度品や絵画など、当時でも相当の名家だったゲーテ家の生活の一端が伺えます。内部は4階まで階段で繋がっています。階段はクラシックホテルのように幅があり、歩くとぎしぎしと音がしました。台所や書斎、執筆活動をした詩人の部屋など各フロアの色々な部屋を見学する事が出来ました。街中を散策するとお土産屋で、銀杏をモチーフにした物が沢山ありました。ゲーテも銀杏の木が好きだった事から、ゲーテのシンボルマークのようになったとか。そう言えば、熊本市の市木は銀杏です。通りの名前やお店の屋号に良く使われており、縁を感じます。その後、観光船にてライン川下りを行い、岸辺を彩る古城とぶどう畑が作り出すロマンチックな景色は最高でした。



『10日目』 6月16日（日）

ドイツ最古の大学の町、学生都市である、ハイデルベルク城観光からスタートします。バスを降りて、坂道を登ったところに、今は廃墟の城で前面の壁が朱、茶色の石造りの古城があります。そこから下に目をやると、ネッカー川にかかるカール・テオドール橋とレンガの屋根並でオレンジ色一色です。

中に入ると大きなワイン樽がありました。直径7m、奥行き8.5m、容量22万2千リットルと言う大きさを、ワインは水代わりに飲んだと言うのも分かります。次に学生牢に向いました、かつてハイデルベルク大学内は治外法権だったため、学生が街で問題を起こしても警察が介入できなかったそうです。

そこで大学当局が造ったのが、自ら学生を処罰する「学生牢」。

街・酒場で小競り合いを起こした学生が、お仕置きとして放り込まれるのがこの場所だったようです。当時の学生の中では、どうもここに入るのには「名誉なこと」「カッコイイこと」とされていたとか。ガイドさんから、ハイデルベルクと熊本市が姉妹都市を結んでいると言う話を聞きました。大きな城、そして、水と緑に恵まれ、飲料水の100%を地下水で賄っているなど多くの類似点を有することから、両市の友好の歴史が1992年から始まったそうです。



『11日目』 6月17日（月）

本日は中世の宝石箱と称されるかわいい町並みのローデンプルク市内観光からスタートです。晴天で気温が30℃を超える予報が出ています。聖ヤコブ教会はゴシック様式の教会で、街のメインとなる教会です。建物内部は芸術品が数多くあり、中でも祭壇とステンドグラスは見ごたえがありました。午後は最終滞在地であるミュンヘンに移動です。移動中にガイドさんからドイツの消費税の話がありました。税率はなんと19%だそうです。誰しもが必要な日用品には7%の低減税率、贅沢品には19%の一般税率が適用されるとか。たとえば牛肉は7%だが、ワインは19%と言う具合です。その他にはドイツの学校は、大学まで学費が基本的に無料らしく親は安心して勉強させる事が出来ます。ミュンヘンに到着すると気温が更に上昇しています。温暖化の

影響でしょうか、近年ではドイツでも30℃を超える日が珍しくないそうです。本日はドイツでの最後の夕食と言う事で、さよならパーティが、ビアホール『ホフブロイハウス』で開催されます。ドイツ最大のビアホール3,000人収容出来るそうで雰囲気圧迫されます。



1リットル入りのビアジョッキで乾杯し、ソーセージを食べながら、旅行参加者によるスピーチで大いに盛り上がりました。最後は関越会の加藤先生の奥様が歌の披露、ドイツ最後の夜にふさわしいパーティとなりました。

『12日目』 6月18日（火）

昨日からの晴天が続き本日も暑さが予想されます。今回の旅は、プラハで小雨が降った以外は良い天候に恵まれました。最後の観光地は、ディズニーランドのシンデレラ城のモデルとなった、ノイシュヴァンシュタイン城です。

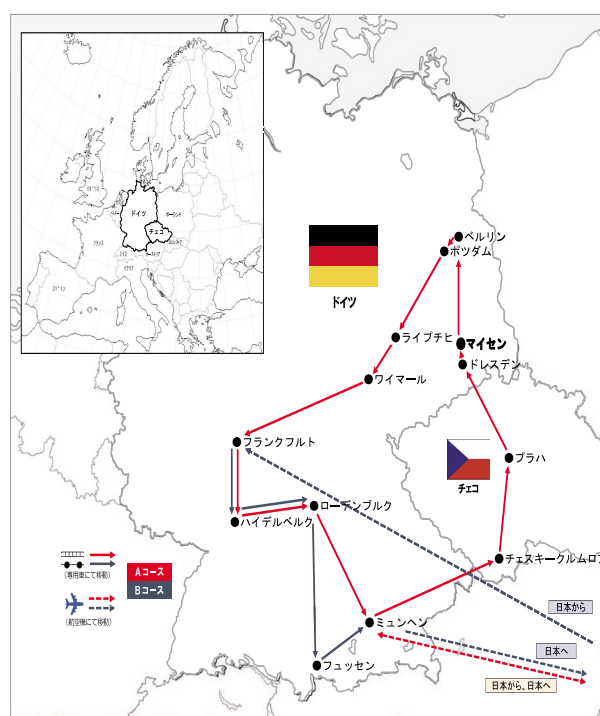


凄く人が多く、中に入るのも入場時間が来

たらゲートをくぐり、一定の人数で中を見学する仕組みとなっています。撮影禁止の城内では、玉座の広間、歌人の広間、執務室、寝室といずれも豪華絢爛。ルートヴィヒ2世が、このお城を作ったのが1886年と聞き、もう明治維新という時代にこんなものを作ったとは驚きです。ノイシュヴァンシュタイン城を後にして、途中世界遺産であるビーズ教会に立ち寄り、ミュンヘン空港へ向かいました。夜9時にミュンヘンを出発、帰国の途に着きました。

『13日目』 6月19日（水）

夕方4時前に日本に到着しました。長時間のフライトで皆様お疲れの様子でしたが、無事に日本に到着した事で安堵の表情に。ドイツ・チェコ周遊の旅は、13日間と言う長い旅行でしたが、大きなトラブルもなく、楽しく旅行を終えられた事を嬉しく思います。次回の海外視察旅行は、スペインです。贅沢で安心な、エッサムファミリー会海外研修旅行に、是非ご参加お待ちしております。



2013年秋の親睦ゴルフコンペ予定

9月

日	曜日	地区会	会 場 ・ 時 間 等
4	水	北海道会	会場：廣済堂札幌カントリー倶楽部 旧コース 時間：8：00 I Nスタート 組数：5組

10月

2	水	関 越 会	会場：プレステージカントリークラブ 時間：9：32 O U T / I N同時スタート 組数：8組
		東 北 会	会場：富谷カントリークラブ 時間：9：06 O U Tスタート 組数：5組
4	金	兵 庫 会	会場：キングスロードゴルフクラブ 時間：8：40 O U T / I N同時スタート 組数：8組
8	火	九 州 会	会場：ザ・クイーンズヒルゴルフクラブ 時間：8：28 O U Tスタート 組数：6組
		京 都 会	会場：瀬田ゴルフコース 北コース 時間：8：14 O U T / 8：00 I Nスタート 組数：8組
10	木	関 西 会	会場：交野カントリー倶楽部 時間：9：17 O U T / I N同時スタート 組数：8組
		南九州会	会場：熊本空港カントリークラブ 時間：9：04 I Nスタート 組数：6組
11	金	関 東 会	会場：藤ヶ谷カントリー倶楽部 時間：9：24 O U T / I N同時スタート 組数：10組
16	水	中 国 会	会場：広島カンツリー倶楽部 西条コース 時間：9：37 O U T / I N同時スタート 組数：8組
23	水	中 部 会	会場：オールドレイクゴルフ倶楽部 時間：9：03 O U T / I N同時スタート 組数：8組

11月

1	金	神奈川会	会場：相模カンツリー倶楽部 時間：8：00 O U T / I N同時スタート 組数：10組
---	---	------	---

一編集後記一

今年は異常気象が続いています。気温40度を超える猛暑があったり、大雨や竜巻による被害が多数発生しています。皆さんの地域はいかがでしょう。天災はいつ何時に起こるか分かりませんので災害時の対策は常に心がけておきたいものです。

さて、9月に入りました。これからの季節、読書もよし、スポーツもよし、旅行もよし、食べ過ぎには注意して秋をエンジョイしたいですね。



表紙写真説明

【中秋の名月】

月見は、主に旧暦8月15日から16日の夜（八月十五夜）と、日本では旧暦9月13日から14日の夜（九月十三夜）にも行われます。そのため、月見に関する話題で単に「十五夜」「十三夜」と言うと、これらの夜を意味します。中国や日本では、単に月を愛でる慣習であれば古くからあり、日本では縄文時代頃からあると言われていています。ただ、『竹取物語』には、月を眺めるかぐや姫を姫が注意する場面があり、月見を忌む思想も同時にあったと推察されます。＜ウィキペディアより＞

エッサムファミリー会連合会会報442号

平成25年9月1日発行

編 集 エッサムファミリー会 広報部

部 長 余 湖 俊 治

発 行 エッサムファミリー会連合会 事務局

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-26-3

エッサム本社ビル6階

電 話 03（3254）1766（直通）